

快適な生活に排水設備

県空調衛生設備協 八工高へ出前教室

県空調衛生設備業協会（土居仁会長）は10月27日、県立八幡浜工業高校で出前授業を行い、協会会員で八幡浜市の（有）谷口水道工業所の谷口元康社長（50）が排水トラップの役割や構造などを説明した。

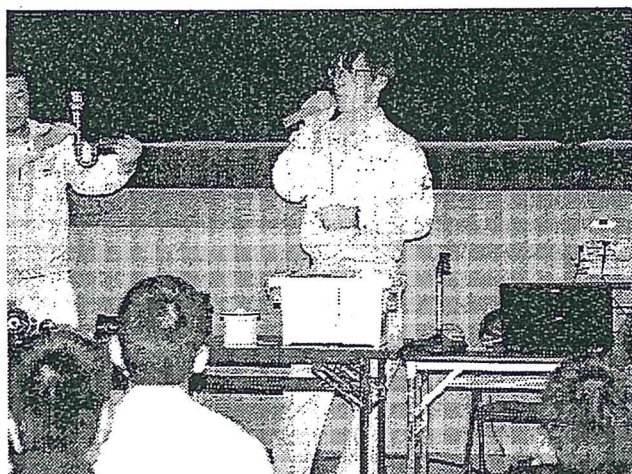
「写真Ⅱ」
空調衛生設備の仕事について知ってもらおうと、7年前から県内の工業系高校で開催しており、同校では4回目。土居会長は「建築物の設備も世の中になくはないもの。私たちが

ちの仕事に理解と興味を持ってもらえればありがたい」と挨拶した。1年生約80人が参加した出前授業で谷口社長は、トラップについて「排水管の途中に設けたSの字やPの字、Uの字などの形をした装置。流し台の下側で見られる」と紹介。トラップの役割は「中に溜まった水が下水道管内の臭いや器具への逆流を防ぎ、害虫や小動物の外からの侵入を防いでいる」と、実物をみせながら説明した。

また、台所や風呂場などから異臭がする場合のほとんどが、このトラップの水がなくなっている状態にあるとして「糸くずや髪の毛が排水管に流れ、トラップ内の水に絡んで吸い上げ、水がなくなることがある」と一因をあげた。

修理の依頼を受けた事例では、お年寄りが「うっかりトイレにへそくりを流してしまいい詰まったエピソードを紹介したほか、「最近多くなっているのは携帯電話を流したという依頼。後ろポケットに入れて落としていることが多いので、スマートフォンは大きくなって流れないが、ガラケーは携帯は排水管まで流れるから注意が必要」と指摘した。

最後に、日常生活に密着したトラップの役割とともに協会の仕事に対する理解を求め「排水設備は快適な生活を送るために必要」と生徒たちの興味を誘っていた。



平成29年11月2日（木）八幡浜新聞